

酒田市に移住して、子育てしちゃう？

SAKA TURNS

移住ガイドブック at sakata



NATURE

豊かな自然を身近に楽しみながらのびのび子育て

① 鳥海山



標高2,236m、別名「出羽富士」とも呼ばれ、古くから山麓の人々の守り神として崇められている。

② 日本海



夏は親子で海水浴や釣り、マリンスポーツなども楽しめる。季節によって変化する、海に沈む夕日の美しさは格別。

③ 最上川



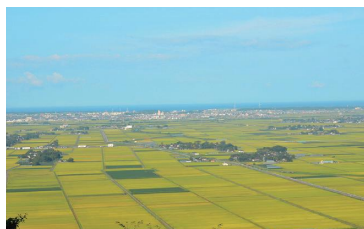
日本一白鳥が飛来するスポットで、日本三大急流の1つ。舟下りなど大自然の中で思いきり遊べる。

④ 飛島



山形県唯一の離島。バードウォッチングやトレッキング、釣りにダイビングとアクティビティが豊富。宿泊も可能。

⑤ 庄内平野



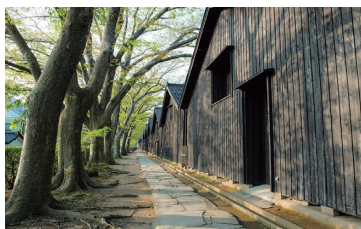
古くから酒田を中心とした2市3町で構成。四季折々の米どころ庄内ののどかな田園風景が広がる。

⑥ 玉簾の滝



落差63mの歴史ある滝。パワースポットとしても人気があり、期間限定でライトアップも行われる。

⑦ 市街地



明治期に米の積出港として賑わった酒田の歴史を今に伝える山居倉庫は、市街地にある。

EVENT

一年を通じ、賑やかで豊かな文化が息づくまち



1609年から毎年5月中旬に開催される「酒田まつり」。大獅子や仔獅子、傘鉾など約50台の山車行列をはじめ、見どころが盛りだくさん。



毎年8月に最上川を華やかに彩る「酒田花火ショー」は東北屈指のスケール。約12,000発もの花火を打ちあげ、なかでも大水上スターメインは迫力満点！



1年を通じてさまざまな魚が釣れる酒田市。特に県内外から釣り人が集う、酒田北港のハタハタ釣りは冬の風物詩として有名。

子育てしやすいまちは暮らしやすいまち

SAKATA CITY



酒田市民にきく **ここが住みやすい!**

- **子育て支援の制度や補助が充実している**
- **街の人が温かく、移住者にも優しい**
- **機能的な市街地も海や山といった自然も身近**

DATA

東北地方の日本海側で、港町として知られる山形県酒田市。雄大な自然とおいしいものがいっぱいある、ちょうどいい田舎暮らしにぴったりのまち。

ACCESS

羽田空港から庄内空港まで飛行機で約1時間、庄内空港から市街地まではバスで約20分。鉄道利用の場合はJR東京駅からJR新潟駅まで新幹線で約2時間、JR新潟駅からJR酒田駅までは特急列車で約2時間。

GOOD NEWS

心も体もすくすく元気に育つ自然の恵みがいっぱい



気軽に利用できる日帰り温泉から絶景を楽しむ温泉宿まで、多様な温泉でほっこりとくつろぎのひとときを過ごすことができる。家族風呂がある温泉も。



県内では比較的寒暖差の少ない気候と、鳥海山、最上川の恵みを受けて、味わい深い食材が育つ庄内平野。直売所では新鮮な地元野菜が安く手に入る。



長命水として知られる「山楯の大榎清水」や鳥海山の万年雪を源とする「湯ノ澤霊泉」など、実際に飲むことができる湧き水スポットがたくさん！

interview

子どもをのびのびと育てたい!



共働きで東京での子育てをイメージできず、いつかは妻の智香さんの故郷である庄内地方へ...と思っていた佐藤さんご夫婦は、^{よう}庸くんの誕生をきっかけに移住。「酒田市は保育料や医療費など補助が充実しています(※現在は中学3年生まで保険適用内の医療費無料)。子どもが思いきり遊べる広い場所が多いのもいいですね。」と智香さん。埼玉県出身の夫・晋さんもすっかりこちらでの生活が気に入り、実家へ帰省してもすぐ帰りたくなってしまふんだとか。「酒田市子どもまつり」が行われていた日和山公園で、遊ぶ^{よう}庸くんを見守りながら、「酒田市の人には地元愛があるのが素敵。子どもにもそんなふう育ててほしいですね。将来、ここを出ることがあっても、また戻ってきてほしい」と口をそろえて話してくれた。



佐藤晋さん(29歳)、智香さん(29歳)、^{よう}庸くん(1歳)。家族で温泉に行くことが多く、移住当初は酒田市の温泉の多さと東京の半額以下の料金に驚いたそう。

佐藤さんのオススメ!

NPO法人にこっと



酒田市街地に拠点施設「にこっと広場」を持ち、0歳～3歳児の遊び場として開放するほか、育児の悩み相談や子育て関連の講座の開催など、多様な育児サポート事業を展開している。

<http://www.npo-nicotto.com/>



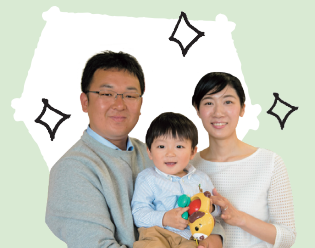
今年で67回を迎えた「酒田市子どもまつり」恒例イベント「ざっこしめ大会」。「ざっこ」は酒田の方言で、「魚」を表す。



interview

人が温かいまちで育てたい!

4年前に、東京から夫の実家がある酒田市へ移住した後藤さんファミリー。「道端やスーパーで知らないおじさんやおばさんが、『めんごの一(酒田の方言でかわいいね)』と声をかけてくれるんです。東京と違ってまちの人に育ててもらっているみたいで、温かさを感じます」と東京育ちである妻の由花さんが語ると「いろいろな人に子どもを見てもらったり声をかけてもらったりして、人とつながりがここにはたくさんあると思います」と夫の永さん^{ひさし}も酒田市の子育て環境に満足している。移住者をよそ者あつかいせず親身に接してくれる一方で、ちょうどいい距離感を保ってくれるのも、港町である酒田の気風なんだとか。子育て支援センターなどで毎日のように子ども向けのイベントが開催されているほか、気軽に子育て相談ができるのも子育てママにはありがたい。



後藤永さん(35歳)、由花さん(30歳)、^{ひさし}澄君(1歳)。酒田市での生活も4年目になり、1ターンの由花さんが永さんに酒田市のいいところを教えることもあるそう。

後藤さんのオススメ!

Rainbow cafe



1ターンしたオーナーが手がけるカフェレストラン。オリジナルハーブティーや焼き菓子、シフォンケーキなどがメニューに並ぶ。小上がり席や授乳室は子ども連れに嬉しい。

山形県酒田市宮海字村東165-1
<https://www.facebook.com/rainbowcaferainbowterrace/>



酒田市のシンボル「大獅子」。5月の「酒田まつり」では無病息災を折り、子どもが「バックン」される。

移住者交流会

酒田市へ移住した人たちが移住者の仲間作りのために2015年に立ち上げた「庄内で暮らそう！移住者交流会」では、BBQや食事会などのイベントを定期的に企画・開催している。芋煮会や寒鱈汁づくりなど、酒田の食文化を体験する機会もあり、楽しく酒田市の暮らしや文化に親しむことができる。参加者には移住者だけでなく、これから移住を考えている人や地元の人も。イベントを通じて気軽に親交を深めたり、リアルな移住の話の聞いたり、移住の不安を相談したりできる。子どもと一緒に参加しているメンバーもいるので、実際の子育ての様子を詳しく聞ける。随時更新されているFacebookでイベントの様子や最新情報をチェックしてみよう。



山形といえば、里芋を使った鍋料理「芋煮」！庄内の豊かな自然を感じながらの食事は、初対面でも自然と話が弾む。



DATA

問い合わせ先
酒田市地域創生部 地域共生課 移住定住係
「庄内で暮らそう！移住者交流会」

Facebook



酒田市の子育てサークル

酒田市内には、子育て中のお母さんたちが運営している子育てサークルが4団体あり、それぞれが実施する季節の行事や外遊びといった活動のほか、各サークルが一緒に参加できる交流会も開催している。主な対象は未就園の子どもと、その家族、保護者。子ども同士がレクリエーションを通じて友達をつくり、のびのびと遊ぶことはもちろん、大人同士も交流を深めながら情報交換ができ、楽しく育児ができる。また子育てサークルをサポートしている「子育て支援センター」は、発育やしつけなどの子育てに関する相談をなんでも受けつけている。一人で悩まずママ友や相談員と一緒に充実した子育てライフを送ろう。



施設には、大きな遊具やおもちゃ、絵本などが充実しているので、保育園や幼稚園に入園する前から友達を作ることができ、社交性を育むことができる。



DATA

問い合わせ先
酒田子育て支援センター

WEB



実際に住宅を利用した移住検討中の方からは、「広くてきれい」「都会暮らしの身からすると、うらやましい周辺環境」と大好評。

充実したお試し住宅

実際に酒田での暮らしを体験できる戸建ての住宅。2LDKの平屋に基本的な家具・家電は一通りそろっており、宿泊費だけでなく、光熱費、水道代もすべて無料。最長で7泊8日まで利用することができる。滞在期間中に移住の相談も受け付けているので、子育て環境や生活環境、医療制度など暮らすうえで気になることを確認したり、地元の人と交流を図るなどして、じっくりと酒田市への移住を検討してみよう。年4回まで利用できるので、雪の季節など一年を通した酒田市の気候や環境を体験することもできる。気になったらお問い合わせを！

DATA

問い合わせ先
酒田市地域創生部 地域共生課 移住定住係

WEB



伝統的な食文化以外にも、地元食材を使ったメニュー開発などを行い飲食店で提供するほか、家庭でも楽しめるレシピを紹介している。

はぐ食プロジェクト

2016年に誕生した、酒田の豊富な食材を生かして「授かる→生む→育てる」という命のサイクルを応援するプロジェクト。酒田市で子どもを授かり、生んで育てたいと思ってもらえるように「食」に関する支援活動を行っている。命をはぐくむ食事＝「はぐ食」をキーワードに、酒田市にある豊かで新鮮な食材と食文化を通じて、子育て世代が住みたくする食の環境がある街づくりを目標としている。具体的には毎日3食の中に日本で伝統的に食べられてきた栄養的価値の高い食材（まめ、ごま、わかめ、やさい、さかな、しいたけ、いも）を取り入れることを推奨し、市内の飲食店でも「はぐ食メニュー」を提供してもらえるように活動している。

DATA

問い合わせ先
「酒田はぐ食プロジェクト」

Facebook

